

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 5 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24591719

研究課題名(和文)溜め込み障害と強迫性障害の臨床的および生物学的差異の検討

研究課題名(英文)Study of clinical and biological differences between Hoarding Disorder and Obsessive-Compulsive Disorder

研究代表者

中尾 智博 (NAKAO, TOMOHIRO)

九州大学・大学病院・講師

研究者番号：50423554

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：2015年3月末日までに面接を行った25例中、ためこみ症(HD)の診断基準に該当した者は17例だった。該当者の平均年齢は 43.6 ± 13.5 (21～73歳)だった。

また我々はCIRSを用いてためこみ症状の重症度評価を行い、ため込み症状の重症度と灰白質体積についてHD4名、OCD22名、HC10名の3群でVBMによる一要因の分散分析を行い、有意差のある部位は検出されなかった。なお、OCD患者のためこみスコアを用いた相関解析では、視覚連合野、縁上回などの候補部位が見出された。今回の結果について特にためこみ症のサンプルが少なかったことの影響は大きく、今後はサンプルサイズを増やしての再解析が必要となる。

研究成果の概要(英文)：Until the end of May 2015, 25 participants were conducted a structured interview. Of those participants, 17 cases met the diagnostic criteria of Hoarding Disorder(HD). The average age of HD patients were 43.6 ± 13.5 (21～73).

We assessed the severity of hoarding symptoms using CIRS. To investigate the correlation between gray matter volume and hoarding severity, we conducted one way analysis of variance using voxel-based morphometry among three groups(4 HD patients, 22 OCD patients, 10 healthy controls). We, however, could not find any significant differences among the three groups. In the correlation analysis using the hoarding scores of OCD patients, several candidate (visual association area, supramarginal gyrus, etc) sites have been found. In the present study, we could not find significant results by image analysis due to the small sample size of the hoarding patients. Reanalysis should be needed with larger hoarding samples.

研究分野：精神病態医学

キーワード：OCD ためこみ Hoarding Disorder(HD) VBM 画像解析 疫学調査

1. 研究開始当初の背景

ためこみ癖 (hoarding) は、無価値なものを収集保存し、捨てられない症状をさす。洗浄、確認などの強迫症状と同じく強迫性障害 (obsessive-compulsive disorder : OCD) のサブタイプの一つとされ、OCD 患者の 20 ~ 40% 程度がこの症状を有しているとされる。一方最近マスメディアに取り上げられるトピックとして、「ごみ屋敷」と呼ばれるものがある。ごみ屋敷はためこみ癖との関連が示唆されているが、これまで精神医学の領域からはほとんどアプローチがなされていない。

2. 研究の目的

現在欧米の専門家は、OCD とは独立してためこみ症状を有するためこみ障害 (Hoarding Disorder : HD) の概念を提唱し、DSM-5 で独立した疾患となった。本研究の目的は HD の診断に合致する対象サンプルを OCD や健常者のサンプルと専門的評価尺度と神経画像を用いて比較することにより、その臨床的および生物学的特徴を明らかにすることにある。

3. 研究の方法

対象者は行動療法研究室が開設しているインターネット上の OCD 情報サイトに併設する形で新たに HD 情報サイトを立ち上げ、そこで募集する。行動療法専門外来でも OCD・HD 療法の被験者を募る。健常者は年齢、性別をマッチングさせ、教育歴や職種等の偏りがないう留意しながら集める。研究参加の同意に関しては、患者・対照者それぞれに対し、研究協力説明書を用いて説明を行い文書にて同意を得る。診断は、OCD と健常者については、SCID- を用いて半構造化面接を実施する。HD についてはロンドン大学で用いられている構造化面接マニュアルを和訳し日本人向けに修正したものをを用いる。

ためこみ症状の評価は以下の二つを用いる。

1) HRS-I (Hoarding Rating Scale-Interview) 部屋の散らかり度合い、捨てることの難しさ、過剰な取得、捨てることに伴う苦痛、生活機能障害の 5 項目を各々 7 段階評価する。

2) CIR (Clutter Imaging Rating)

リビング、台所、寝室といった居室の散らかり具合を写真サンプルを用いて 9 段階評価する。

MRI 撮影は当院放射線科協力の下、3 テスラの高解像度 MRI 装置を用いて実施する。以下の各条件下での撮像を行い、各被験者の脳構造および機能 (血流) を測定する。

a) 構造画像 (Voxel Based Morphometry : VBM) T1 強調画像を用いて撮像を行い、灰白質の体積を全脳的に測定する。

b) 拡散テンソル画像 (diffusion tensor image : DTI)

拡散強調画像を用いて拡散の異方性を測定し、白質の微小構造を調べる。

c) 血液スピラベリング (Arterial Spin Labeling : ASL)

反転パルスを持続的に血液にラベリングし局所脳血流の測定を行う。

臨床評価および画像評価のデータ解析を、SPSS や SPM などの専用ソフトを用いて実施する。

4. 研究成果

研究担当者が病歴聴取、診断面接、臨床評価を行った。ためこみ癖に該当した対象者には、臨床評価についての調査を合わせて実施した。SCID 簡易版、構造化面接ためこみ障害 (HD) 版を実施し、同疾患の該当の有無および他の精神疾患の有無を評価した後、HRS-I (Hoarding Rating Scale-Interview) と CIR (Clutter Imaging Rating) により、ためこみ癖の重症度評価を実施した。さらに強迫症状、うつ症状、広汎性発達障害、ADHD の質問紙による評価、構造化面接を実施した。

2015 年 3 月末日までに構造化面接を行った 25 例中、HD の診断基準に該当した者は 17 例であった。HD 該当者について、平均年齢は 43.6 ± 13.5 (21 ~ 73) 歳であった。ためこみの対象物は、衣類、本類、袋・入れ物類、書類、郵便物、趣味の品など多岐にわたった。重症度評価の一つである HRS-I の平均値は、 26.5 ± 6.5 (cutoff 14) であった。

また我々は CIRS を用いてためこみ症状の重症度評価を行い、有意差のある部位は検出されなかった。更に、DY-BOCS のためこみに点数がついている OCD 患者 22 名について DY-BOCS のためこみ症の重症度と体積の相関のある部位を調べたが、多重比較補正では有意な相関を認める部位は検出されなかった。多重比較補正なしでは、有意な負の相関のある部位がいくつか検出された。

今回はためこみ症の患者のサンプルサイズが小さく、画像解析で有意な結果は得られなかったが、OCD 患者のためこみスコアを用いた相関解析では、いくつかの候補部位が見出だされており、今後サンプル数をさらに増やして再度検討を行いたいと思う。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 4 件)

Okada K

A voxel-based morphometric study based on dimensional assessment

Psychiatry Clin Neurosci

査読有

Epub ahead of print, 2014

DOI:10.1111/pcn.12269

Nakao T

Neurobiological model of obsessive-compulsive disorder: Evidence from recent neuropsychological and neuroimaging findings

査読有
68、2014、587-605
DOI:10.1111/pcn.12195

中尾智博
Hoarding disorder.DSM-5 において新しく
提示された疾患概念や評価法をどう理解
するか.
精神科、2014.1.28、24 : 49-56

中尾智博
強迫性障害の初期面接.私の初期面接 : な
にをどう聞き、どう伝えているか.
臨床精神医学、2014.4.28、43 : 469-473

[学会発表](計 5 件)

Okada K
White Matter Structural Changes of
Obsessive Compulsive disorder-from the
aspect of Diffusion Tensor Imaging
第 36 回日本生物学的精神医学会年会
2014 年 9 月 29 日 ~ 2014 年 10 月 1 日
奈良

安達利昭
退院前訪問を繰り返し、居住スペースを確
保し、退院となったためこみ症の一例
第 67 回九州精神神経学会
2014 年 12 月 5 日
福岡

桑野真澄
Hoarding(ため込み)と児童思春期に発症
する精神疾患の関連についての疫学的研
究
明治安田こころの健康財団 2013 年度研究
助成 研究報告会
2014 年 7 月 26 日
東京

村山桂太郎
強迫症における視覚的ワーキングメモリ
と脳賦活の変化について
精神疾患と認知機能研究会
2014 年 11 月 8 日
東京

中尾智博
OCD の脳画像研究
第 6 回日本不安障害学会シンポジウム「不
安障害はどこまで脳の病気か-脳画像研究
のポテンシャル」
2014 年 2 月 1 日-2014 年 2 月 2 日

[図書](計 4 件)

中尾智博
医学書院
強迫性障害の早期徴候と治療・対応 水野
雅文編 ; 重症化させないための精神疾患の
診方と対応

2014、総ページ数 : 10

中尾智博
明治安田こころの健康財団 研究助成論
文集
Hoarding(ため込み)と児童思春期に発症
する精神疾患の関連についての疫学的研
究
2014、総ページ数 : 7

中尾智博
強迫症/強迫性障害 . DSM-5 を読み解く
4(総編集 : 神庭重信、編集 : 三村将)
2014、総ページ数 : 8

中尾智博
中山書店
ためこみ症.DSM-5 を読み解く 4(総編集 :
神庭重信、編集 : 三村将)
2014、総ページ数 : 10

[産業財産権]
出願状況(計 件)

名称 :
発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
出願年月日 :
国内外の別 :

取得状況(計 件)

名称 :
発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
出願年月日 :
取得年月日 :
国内外の別 :

[その他]
ホームページ等

6 . 研究組織
(1)研究代表者
中尾 智博 (NAKAO, Tomohiro)
九州大学・大学病院・講師
研究者番号 : 50423554

(2)研究分担者
實松 寛晋 (SANEMSTSU, Hirokuni)
九州大学・大学病院・助教
研究者番号 : 30588116

吉浦 敬 (YOSHIURA, Takashi)
鹿児島大学・医歯(薬)学総合研究科・教授

研究者番号：40322747

樋渡 昭雄 (HIWARASHI, Akio)
九州大学・大学病院・助教
研究者番号：30444855

(3)連携研究者

()

研究者番号：